



立て心よ 行け私よ

No. 8

【問題解決力】 【他者関係力】 【自己更新力】

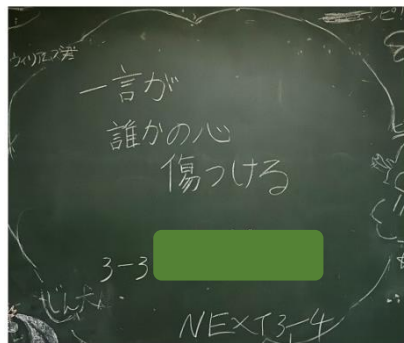
文責:中村 文成

校長講話 「一言が」人権教育月間によせて (10月21日)

おはようございます。

先日の3年生の親善音楽会 体育館でも聴かせてもらいましたが、メセナでの発表は、それを上回り、圧巻でした。3年生の表情、歌声、これぞ、「立て心よ、行け私よ」の姿ではないかと感じました。1,2年生も含め、令和7年度も残り半年を切りました。自分の目指すところに向かって、心を立て、行動を起こして行ってほしいと願っています。

さて、今日の話に入ります。先週まで、廊下の掲示黒板に、この言葉「一言が誰かの心傷つける」と書かれていました。この掲示板、知っている人?・・・大勢のみなさんが目にしているんですね。私は、この言葉を書いてくれた〇〇〇〇さんに感謝したいと思っています。なぜなら、この言葉を目にしたとき、ドキッとしました。私が日頃、投げかけている言葉で、誰かを傷つけているのではないだろうか? 日頃、当たり前のように行っていることが誰かの心を傷つけているのではないかと気づかせてくれたからです。みなさんはどうですか? 日常の中に、気づかないうちに人を傷つけてしまうことって、意外とあるように感じます。今日は、日頃のなかに潜んでいるなかなか気がつかないことの一つ「いじり」について話題にしたいと思います。



「いじり」という言葉は、お笑いの中で、人をからかうということとして使われるようになりました。お笑いの中では、「ボケとツッコミ」で特に、ツッコミのように笑いをとる手法としてある程度認められてきました。他人をからかったり、自分自身のことを顔や体型などの外見や勉強ができないことや失敗したことを面白おかしく言ったりして笑いをとる、そういうことが笑いをとるためには、仕方ないとされてきました。

「いじり」なら許される?

- 学校でなされる「からかい」を「いじり」と呼ぶ風潮がでてきた。
- 「からかい」であれば許されないことが、「いじり」であれば笑いをとる手法として許されるということになってきている。
- 「いじり」によって笑いが生まれ、お互いの心の距離が近くなると考えている人もいます。

こうしたことが背景にあり、学校でなされる「からかい」を「いじり」と呼ぶ風潮がでてきました。「からかい」であれば許されないことが「いじり」であれば笑いをとる手法として許されるということになってきたのでしょね。「いじり」によって笑いが生まれ、お互いの心の距離が近くなると考えている人もいます。

「いじり」が「からかい」と同様である以上「いじり」を受けている人が苦痛を感じることは多くあ

ります。しかし、「笑いでその場の雰囲気になごむ」とか、「いじられキャラをやめてしまうと友人が離れていく」というような、もっともらしい理由から、苦痛を感じていても、それを苦痛だと言えなくなってしまうことが多いようです。苦痛を受けているのに苦痛だと訴えにくいので、「いじり」は「いじめ」より恐ろしいものとも言えるかもしれませんね。

では、相手を傷つけずに、よりよい友だち関係をつくっていくためにどうしていったらよいと思

いますか？その場のノリや笑いでつながることは、とても簡単なコミュニケーションの一つですが、相手との距離を近づける親しい関係になるのに、その笑いだけで本当に親しくなれるのかといえ、実はなかなか難しいものです。やはり、「人と人が実際に向き合う」ことや「相手との会話を積み重ねる」時間が大事ではないでしょうか。また、言葉がどれだけの力をもっているかということ、きちんと把握する必要があり、やはり言葉を出す前に「これは大丈夫なのか」というように、1回立ち止まってみることが大事なのかもしれません。

本校には、授業や生活の様々な場面で、伝え合うとか、わかり合おうというそういう場を大切にしていこうと、よりよい関係性をつくることのできる力をつけていって欲しいという願いから、「他者関係力」と言う言葉がありますね。この力は、とても大切ですね。

実際、「いじり」は日常の中に潜むものです。

「いじり」から「いじめ」に発展したケースは数え切れないほどあります。もし、みなさんの日常に「いじり」があるとすれば、本当に大丈夫なのか、よく振り返ってほしいこと、一言一言の言葉が、本当に大丈夫なのかということ、自分自身、友との関係、クラス、学年、部活の仲間、様々な関係性の中での自分のくらしを振り返り、改善すべきことはしっかりと改善してほしいと願っています。

後期の人権月間が始まっています。人権同和学習でしっかりと学ぶとともに、自分たちの今あるくらしにも目を向けて、人権意識、人権感覚を高めていって欲しいと願っています。もし、機会があれば、一度、この「いじり」について、クラスで話し合ってみてください。これで校長講話を終わります。

ではどうすれば???

- ・「人と人が向き合う」「相手との会話を積み重ねる」時間を大切にする
- ・言葉を出す前に「これは大丈夫なのか」というように、一度立ち止まってみる

墨坂中「他者関係力」という言葉

- ・授業や生活の様々な場面で、伝え合ったり、わかり合おうというそういう場を大切にしていこうと、よりよい関係性をつくることのできる力をつけていってほしいと願っています。
- ・この力をつけていくことがよりよい人間関係を気づいていく上で大切。

(学級通信より)

○朝、校長講話がありました。今回は「いじり」についての話でした。校長先生の話をして、日常生活の中で気づかないうちに相手を傷つけてしまっているかもしれないんだと改めて思いました。

今は人権教育月間なので、特に誰かに話す時は、言ってもいいことなのか考えてから話すことをみんなで気をつけたいです。

自分も気をつけることはもちろん、「みんなで気をつけたい」ということが、お互いの人権を大切にするうえで大事ですね。

須坂市内中学校卒業学年親善音楽会

10月16日(木)、メセナホールで須坂市内中学校卒業学年親善音楽会が行われました。「校歌」と「立て心よ」、「土の歌」の3曲を歌いました。以下は、講師の小林雅彦先生(須坂市前教育長で、4代前の校長先生)からいただいた講評です。

「充実した『校歌!』、堂々とした合唱でした。心がウキウキしてくるような『立て心よ』、皆さんの自信が音に込められていました。

『土の歌』、大きな挑戦でしたね。でも、大地讃頌しか知らない人たちにとっては、この曲がなぜ p (ピアノ) で静かに始まるのか、どうして大地に感謝しなければならないのか、よくわかったと思います。各パートごとに大変歌詞を大切にしました合唱になりました。いつもどちがう大地讃頌終了後の感動がおしよせてきました。

ありがとうございました。」



pp 日常から



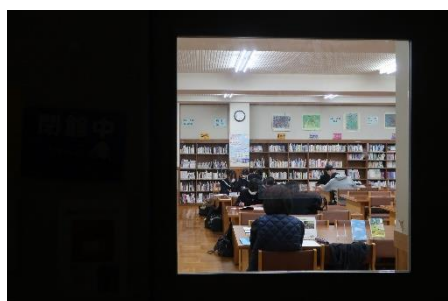
【PTA 人権教育講演会】上田情報ビジネス専門学校の“ヒダカズ”先生に、「あり方」について熱くお話いただきました。



【思いを届ける】JRC 委員会が取り組んできたアルミ缶回収。換金して須坂市社会福祉協議会に寄附をしました。



【体育の授業の一コマ】秋晴れのもと、ソフトボールに、サッカーに、とグラウンド狭しと駆け回ります。



【3年生放課後学習】いよいよ始まりました。学習ボランティアの堀正子先生に勉強を教えてください、見守っていただいたりしています。



【清掃】中庭のケヤキの木は大量の落ち葉を落とします。15分でも、みんなでがんばると、あっという間にきれいになります。



【クラス対抗ごみ拾い大会】整美委員長の「整美活動を校外に広げたい」という願いのもと、今年度新しい活動として通学路のごみを拾いました。